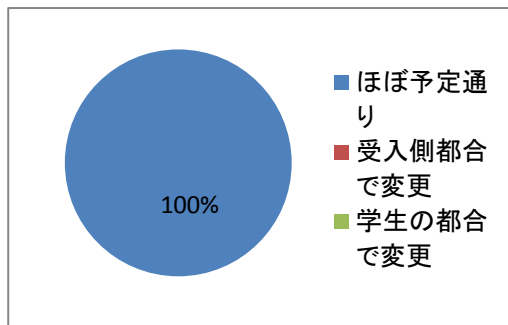


有効回答数 36

1. 学生について

Q1-1 予定期間との差

選択項目	回答数
ほぼ予定通り	36
受入側都合で変更	0
学生の都合で変更	0
その他	0

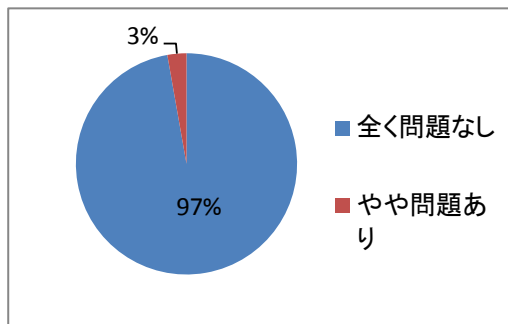


Q1-2 就業・マナー

選択項目	回答数
全く問題なし	35
やや問題あり	1
大きく問題あり	0

前年度(2015年度)

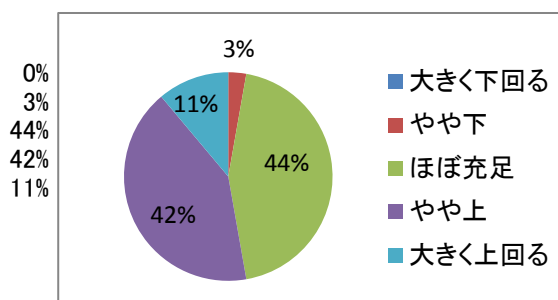
全く問題なし	38
やや問題あり	3



Q1-3 スキル充足度

選択項目	回答数
大きく下回る	0
やや下	1
ほぼ充足	16
やや上	15
大きく上回る	4
平均値:	3.6

2015年	3.6
2014年	3.6
2013年	3.4
2012年	3.5
2011年	3.5
2010年	3.3
2009年	3.2
2008年	3.8



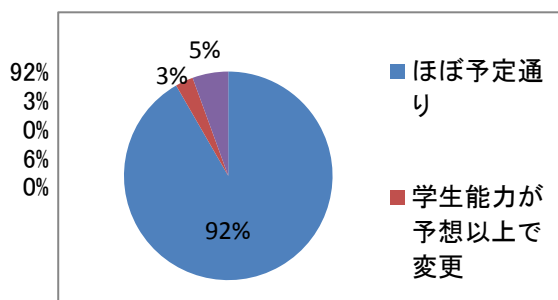
前年度(2015年度)

大きく下回る	0
やや下	0
ほぼ充足	54%
やや上	37%
大きく上回る	10%

■ 昨年度と同様だが、「やや上+大きく上回る」が増加(47%→53%)

Q1-4 業務遂行

選択項目	回答数
ほぼ予定通り	33
学生能力が予想以上	1
学生能力が予想以下	0
受入側都合で変更	2
その他	0



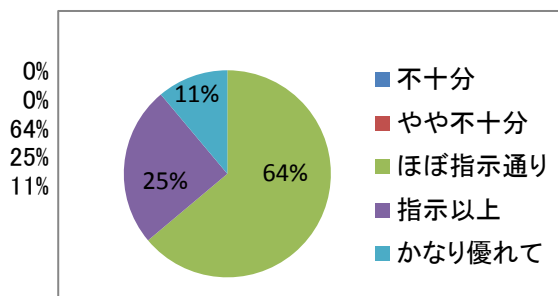
前年度(2015年度)

ほぼ予定通り	83%
学生能力が予想以上	15%
学生能力が予想以下	2%
受入側都合で変更	0

Q1-5 遂行度合い

選択項目	回答数
不十分	0
やや不十分	0
ほぼ指示通り	23
指示以上	9
かなり優れて	4
平均値:	3.5

2015年	3.4
2014年	3.6
2013年	3.6
2012年	3.5
2011年	3.6
2010年	3.5
2009年	3.3
2008年	3.3
2007年	3.7



前年度(2015年度)

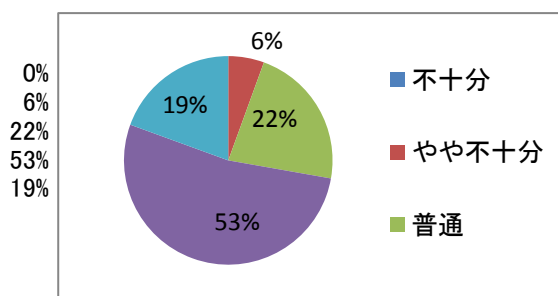
不十分	0
やや不十分	5%
ほぼ指示通り	63%
指示以上	22%
かなり優れて	10%

■ 平均値は昨年よりやや上昇(3.4→3.5)

Q1-6 積極性

選択項目	回答数
不十分	0
やや不十分	2
普通	8
やや積極的	19
かなり積極的	7
平均値:	3.9

2015年	3.8
2014年	3.8
2013年	3.9
2012年	3.8
2011年	4.0
2010年	4.0
2009年	3.9
2008年	3.9
2007年	4.0



前年度(2015年度)

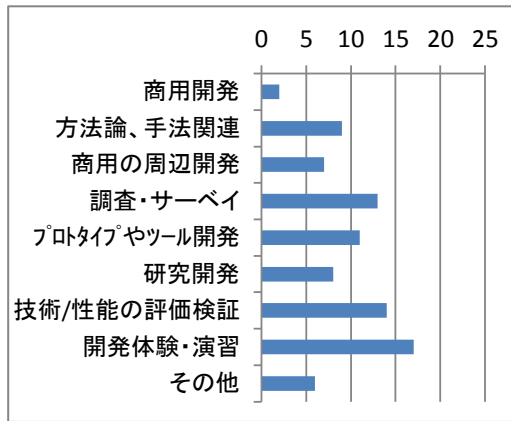
不十分	0
やや不十分	0
普通	41%
やや積極的	37%
かなり積極的	22%

■ 昨年より「かなり積極的+やや積極的」が上昇(59%→72%)

2. アンケート(受け入れ部門)

Q2-2 担当させた業務の種類(複数回答可)

選択項目	回答数
商用開発	2
方法論、手法関連	9
商用の周辺開発	7
調査・サーベイ	13
プロトタイプやツール開発	11
研究開発	8
技術/性能の評価検証	14
開発体験・演習	17
その他	6
	87

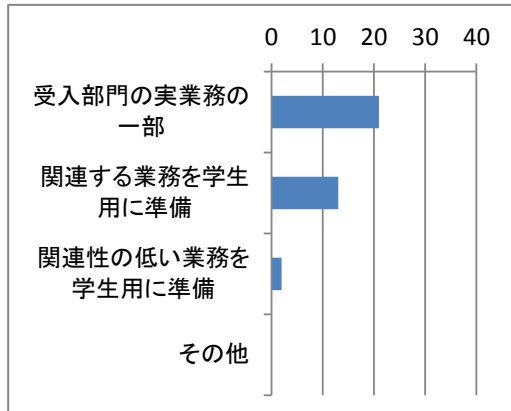


前年度(2015年度)
 ・商用開発 2 (3%)
 ・方法論、手法関連 8 (10%)
 ・商用の周辺開発 7 (9%)
 ・調査・サーベイ 6 (8%)
 ・プロトタイプやツール開発 8 (10%)
 ・研究開発 5 (6%)
 ・技術や性能の評価・検証 16 (21%)
 ・開発体験・演習 23 (29%)
 ・その他 3 (4%)

■ 昨年に比べ「調査・サーベイ」「プロトタイプやツール開発」が増加

Q2-3 担当させた業務の種類(複数回答不可)

選択項目	回答数
受入部門の実業務の一部	21
関連する業務を学生用に準備	13
関連性の低い業務を学生用に準備	2
その他	0
	36



前年度(2015年度)
 ・実業務の一部を担当させた 25 (61%)
 ・実業務に関連する業務を学生用に準備した 16 (39%)
 ・実業務とは関連性の低い業務を学生用に準備した 0 (0%)
 ・その他 0 (0%)

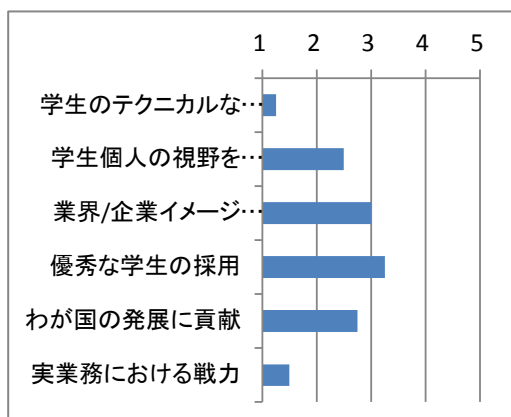
■ 例年と同様に「実業務の一部を担当」が多い

3. アンケート(窓口部門)

Q3-1 インターンシップの受入意義

(優先度 高:5-3-1:低、0:該当せず)

選択項目	回答数
学生のテクニカルなスキルアップ	1.3
学生個人の視野を広げ、学習意欲を向上させるため(大学教育の支援)	2.5
業界/企業イメージのアップ	3.0
優秀な学生の採用	3.3
わが国の発展に貢献	2.8
実業務における戦力	1.5
その他	



前年度(2015年度)
 ・学生のテクニカルなスキルアップを行うため(大学教育の支援) 2.7
 ・学生個人の視野を広げ、学習意欲を向上させるため(大学教育の支援) 3.8 ①
 ・IT関連職の職業イメージを持ってもらうことによる業界/企業イメージのアップ 3.5 ②
 ・インターンシップを通じて優秀な学生の採用に結び付けていくため 3.5 ②
 ・経団連/CeFIL活動の趣旨に賛同し、広くわが国の発展に貢献するため 3.3
 ・実業務における戦力として 1.3

■ ここ数年「優秀な学生の採用に結び付け」の意識が高くなっており、今年度はもっとも優先度が高くなった

4. CeFIL基準、ご意見、ご感想など

【CeFIL基準を受け入れ条件にできなかった理由】

- ・ 実施する内容に関係のない項目 (TOEIC) があるため。
- ・ CeFIL基準を満たすかどうか、インターン受入れ可否の判断基準と異なったため。
- ・ 他社よりも、企画に重点を置いた内容のため。
- ・ そこまでの基準は求めないので。
- ・ 簡易なプログラミング経験があれば、十分遂行できるテーマであると判断したため。
- ・ 面接内容を受入判断材料としていたため。
- ・ 他インターン推進組織との兼ね合いにより、規定しなかった。

【CeFIL基準・運営へのご意見】

- ・ CeFIL基準を満たす学生さんを初めて受け入れましたが、大変優秀との印象を受けました。一定の質が担保されていると感じました。
- ・ ユーザ企業用、ベンダー用の基準がそれぞれあると有難いと感じました。

【ご意見・ご感想】

- ・ 今回受入れさせて頂いたインターンシップ生のレベルは申し分ありませんでしたが、共同研究等のパイプが無いと、事前に頂いていた情報量だけでは、掘り切れない部分もあり、大学院での専攻と、実際現場で準備したテーマに開きがあったと感じている。
- ・ 事前に、もう少し具体的な情報を頂けると、より適切な実習先の選定や、テーマ選定が可能となり、大学教育の補完的効果が上がると感じました。
- ・ インターン生の資質、姿勢が年々向上しているように感じています。
- ・ 学生に企業で働く意欲を持ってもらえるために、より良いインターンシップのあり方(期間、OJTなど)を考え向上させていきたいと思っております。